

事例番号:340344

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

一絨毛膜二羊膜双胎の第1子

妊娠18週頃-胎児推定体重差あり

妊娠26週3日 selective IUGR(一児発育不全)type IIIの診断

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠28週3日

時刻不明 搬送元分娩機関受診

19:16 一絨毛膜二羊膜双胎、Selective IUGR、妊娠高血圧症候群のため当該分娩機関へ母体搬送となり入院

#### 4) 分娩経過

妊娠28週3日

21:04 一絨毛膜二羊膜双胎、既往帝王切開後妊娠、双胎間輸血症候群、胎児機能不全、妊娠高血圧症候群の診断で帝王切開にて第一子娩出、骨盤位

21:05 第二子娩出

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で吻合血管あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28週3日

(2) 出生時体重:1000g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.38、BE -5.9mmol/L

- (4) Apgarスコア:生後1分2点、生後5分6点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク、チューブ・バッグ)、気管挿管
- (6) 診断等:
  - 出生当日 早産児、極低出生体重児
- (7) 頭部画像所見:
  - 生後79日 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

### <搬送元分娩機関>

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
  - 医師:産科医1名
  - 看護スタッフ:助産師1名

### <当該分娩機関>

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
  - 医師:産科医3名、小児科医2名、麻酔科医1名、研修医1名
  - 看護スタッフ:助産師2名、看護師2名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、出生までのどこかで生じた胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したと考えられる。
- (2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは困難であるが、一絨毛膜二羊膜双胎による血流の不均衡の可能性を否定できない。
- (3) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性がPVL発症の背景因子であると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

- (1) 紹介元分娩機関における一絨毛膜二羊膜双胎の妊娠中の外来管理(一絨毛膜二羊膜双胎と診断し一絨毛膜二羊膜双胎妊娠における母児のリスクについ

て説明)、および妊娠 12 週 2 日一絨毛膜二羊膜双胎のため搬送元分娩機関へ紹介したことは、いずれも一般的である。

- (2) 搬送元分娩機関における一絨毛膜二羊膜双胎の妊娠中の外来管理(両児の推定体重および羊水量の測定)、妊娠 21 週 4 日一絨毛膜二羊膜双胎、Selective IUGR のため入院管理としたこと、および入院後の管理(両児の推定体重・羊水量の測定・胎児膀胱の確認、パルスドプラー法による臍帯動脈血流計測、胎児鏡下レーザー胎盤血管焼灼術の可能な医療機関に複数回紹介受診)は、いずれも適確である。

## 2) 分娩経過

- (1) 搬送元分娩機関におけるに妊娠 28 週 3 日受診時の対応(ハタリイン測定、尿検査実施、超音波断層法実施、パルスドプラー法実施、血液検査)、および一絨毛膜二羊膜双胎、Selective IUGR、妊娠高血圧症候群のため母体搬送したことは、いずれも一般的である。
- (2) 妊娠 28 週 3 日、当該分娩機関における入院後の対応(ハタリイン測定、尿検査実施、血液検査、超音波断層法実施、パルスドプラー法実施)、および一絨毛膜二羊膜双胎、既往帝王切開後妊娠、双胎間輸血症候群、胎児機能不全、妊娠高血圧症候群の診断で帝王切開を実施したことは、いずれも一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

- 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 搬送元分娩機関

なし。

- (2) 当該分娩機関

なし。

2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

ア. 早産児の PVL 発症の病態生理、予防に関して、更なる研究の推進が望まれる。

イ. 一絨毛膜二羊膜双胎における脳性麻痺発症の原因究明と予防、血流の不均衡が原因で脳性麻痺を発症したと考えられる事例に対する研究を強化することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。